

スポーツ参加における 二極化解消策

大東文化大学 森ゼミA

野原進平 片岡愛 黒岩みさき 鈴木雅人
高木美沙 田島瑞紀 山本詩織

目次



緒言

背景

提言

終わりに

緒言



子どもの発育状況、体格

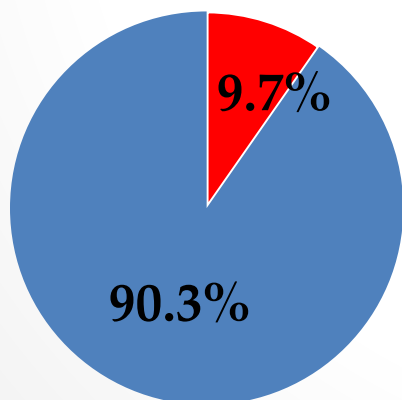
- 経済発展、生活水準や環境の向上



子どもの体力、運動能力

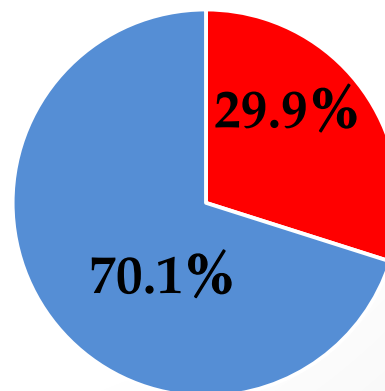
- 運動やスポーツをして遊ばない
- 昭和60年頃から体力は低下傾向にある

中学生の1週間の総運動時間



男子

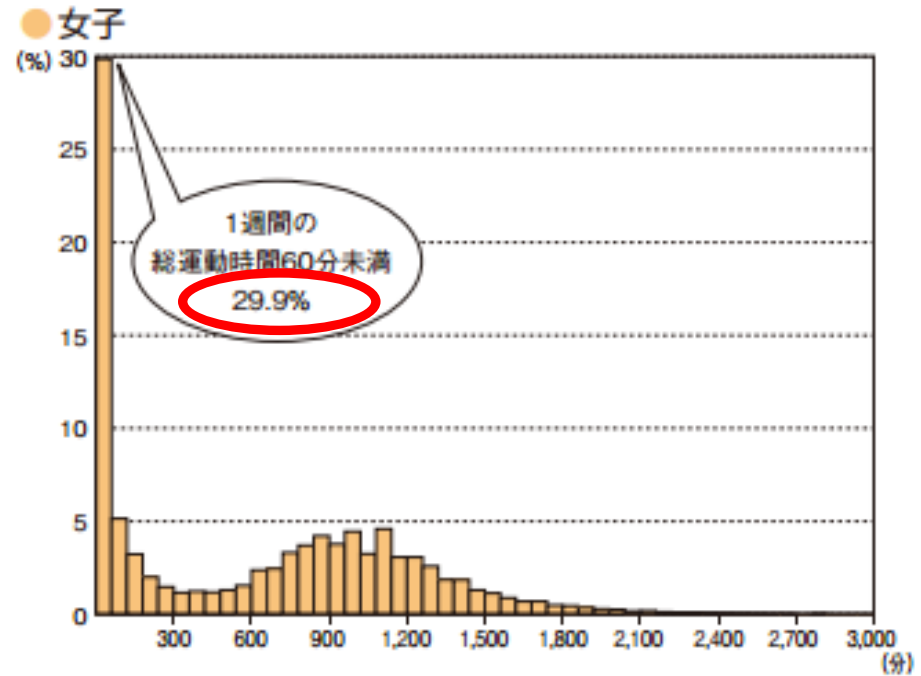
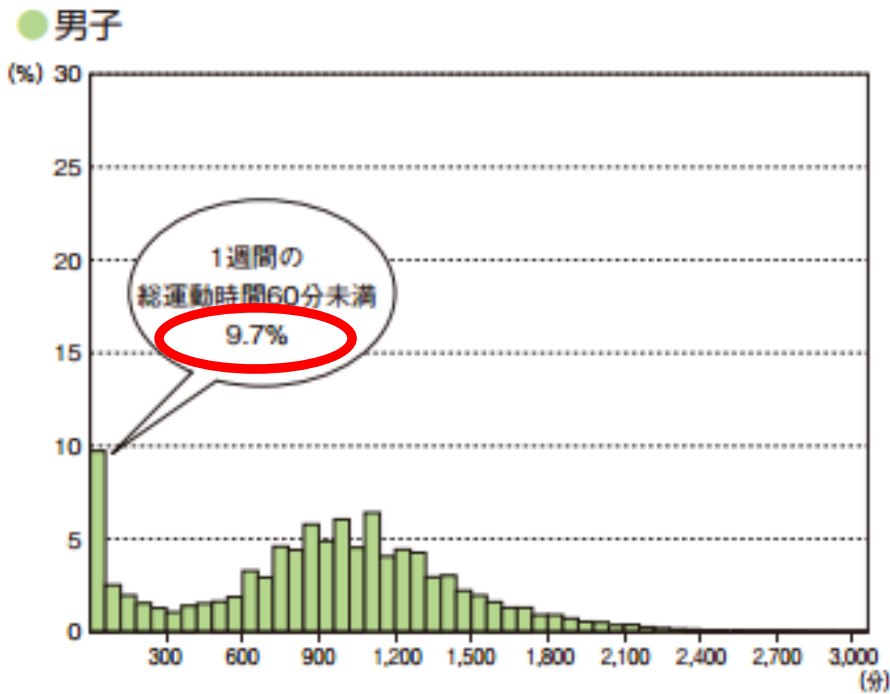
■ 60分未満 ■ 60分以上



女子

■ 60分未満 ■ 60分以上

1週間の総運動時間



中学生における運動の二極化

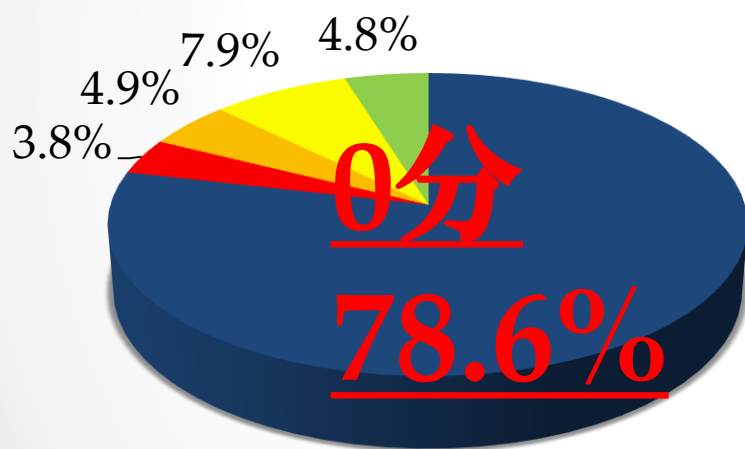
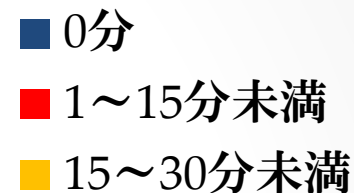
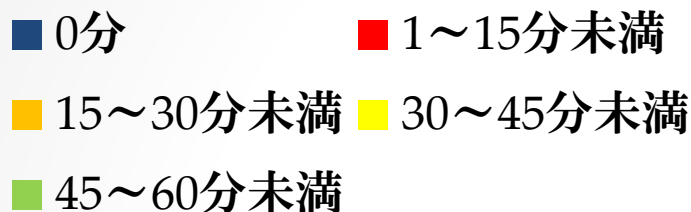
運動をする子

- 週の総運動時間60分以上
- 不適切な指導方法
- スポーツ障害

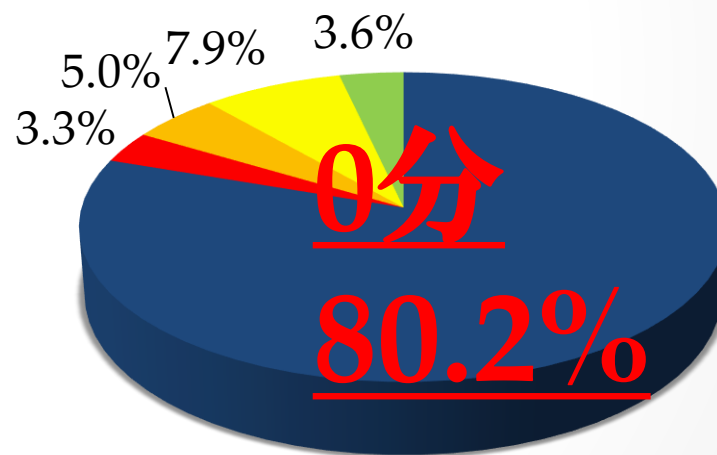
運動をしない子

- 週の総運動時間
60分未満
 - 男子9.7%
 - 女子29.9%
- 運動習慣がない

60分未満の生徒の内訳



男子



女子

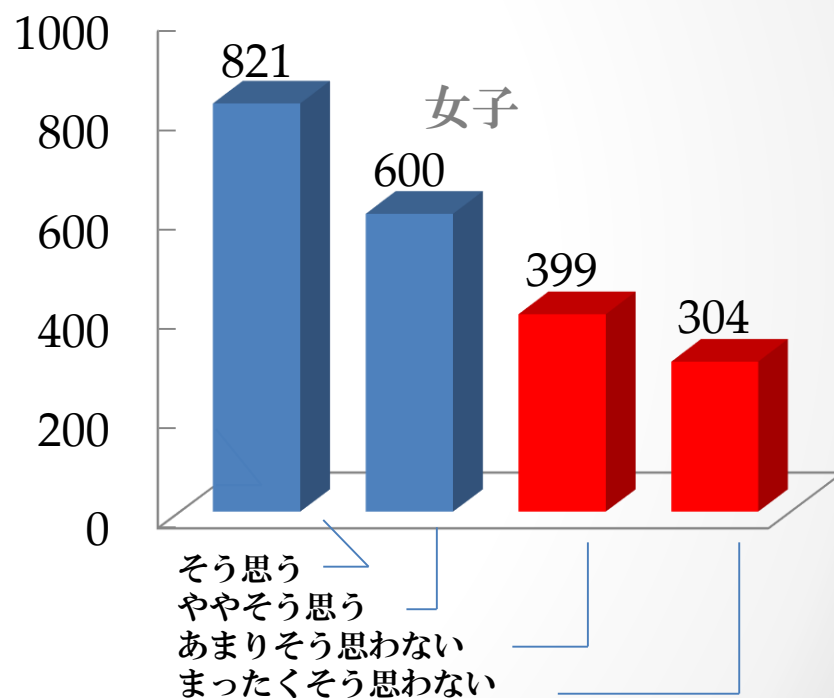
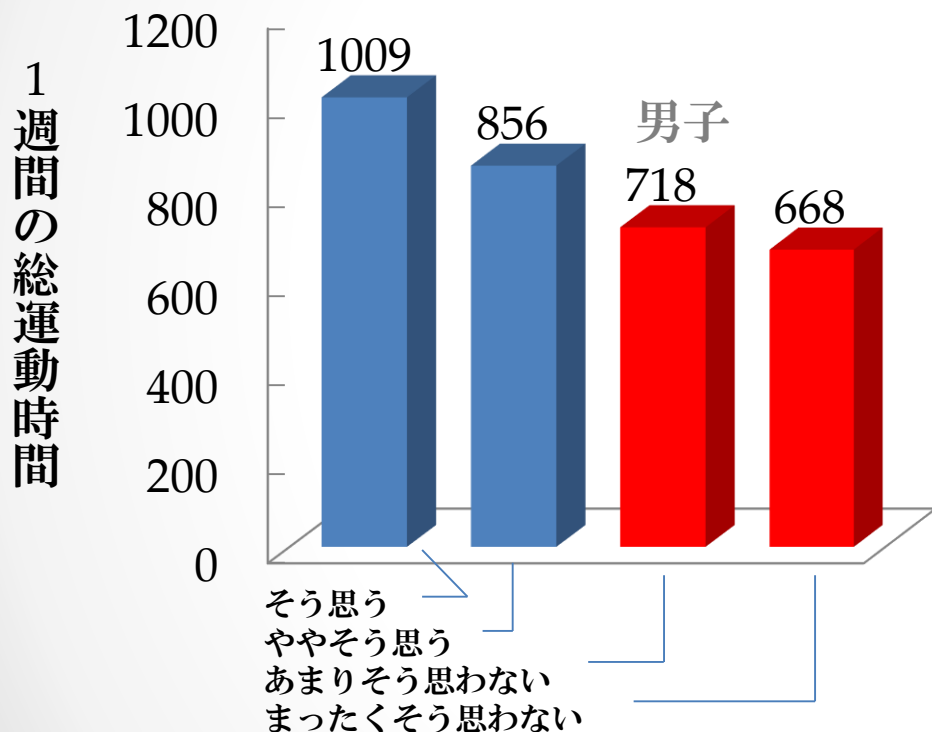
保健体育の授業が楽しいと...

あまりそう思わない
全くそう思わない

• 男子 15.5%
• 女子 26.9%

女子の約4人に1人は体育授業が楽しいとは思っていない

「保健体育の授業は楽しい」についての 回答と1週間の総運動時間との関連



週の運動時間が少ないほど楽しいと思っていない

出典：文部科学省 平成25年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査

体育授業が楽しくない理由

できないことが
できるようにならない

好きな種目を
見つけられない

保健体育が
自分にとって
大切と感じられない

運動が苦手・嫌いな子が スポーツや運動を行う条件

好きな種目
できる種目

友達

自分のペース

場所

好きな種目 できる種目

- ・生徒にとって実現可能な狙いを設定
⇒十分な達成感や充実感を味わわせる
- ・生徒が領域のまとまりから運動を選択
⇒生徒が探求したい運動やスポーツを選択できるようにする

好きな種目、できる種目を
増やす

外部指導者、複数の指導者による指導体制

⇒全体の流れに取り残される生徒をなくす。

各自の運動レベルに応じた指導を行う

自分のペース

自分のペースで運動を行う

- 出典：文部科学省 平成25年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査

場所

友達

- ・ 仲間と関わりあいながらスポーツを行える場面や機会の設定
- ・ 共にスポーツや運動を行える環境を提供

運動を自発的に行いやすい
環境の提供

出典：文部科学省 平成25年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査

体育授業が楽しくない理由

できないことが
できるようにならない

好きな種目を
見つけられない

保健体育が
自分にとって
大切と感じられない

運動が苦手・嫌いな子が スポーツや運動を行う条件

好きな種目
できる種目

友達

自分のペース

場所



運動習慣の有無が及ぼす影響は？



精神面

- 「キレる子ども」

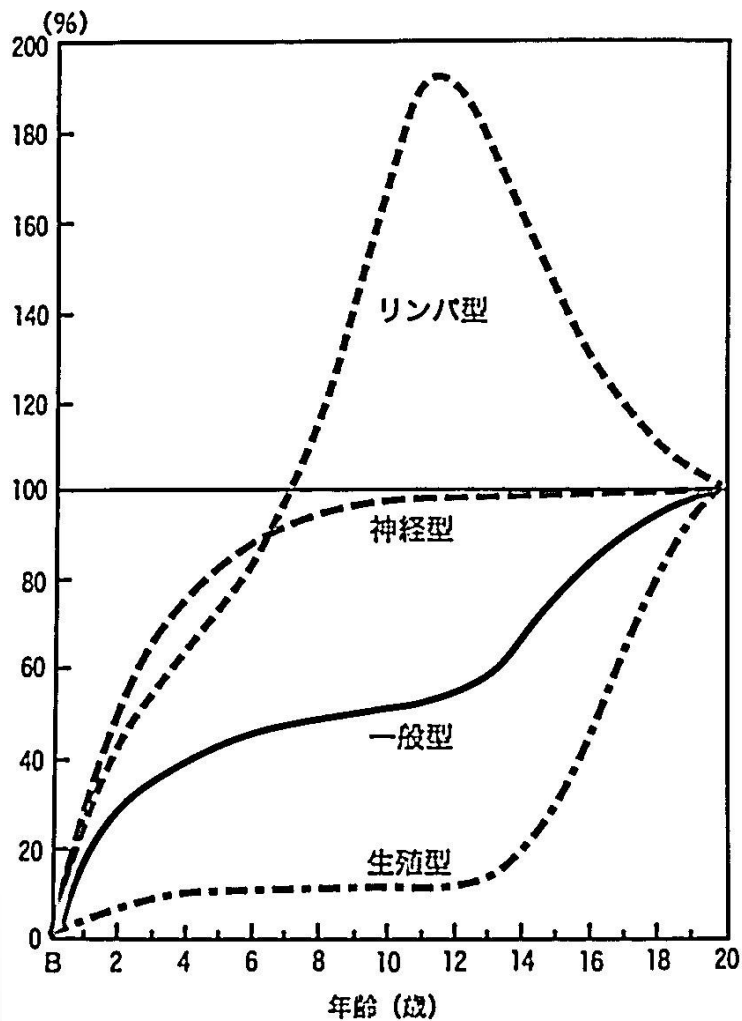
苛立ちや怒りといった感情を抑制できず、感情の赴くままに行動する

- 「ストレス症状」

習い事やいじめ、対人関係によるストレスによる様々な身体症状



スキヤモンの発達・発育曲線



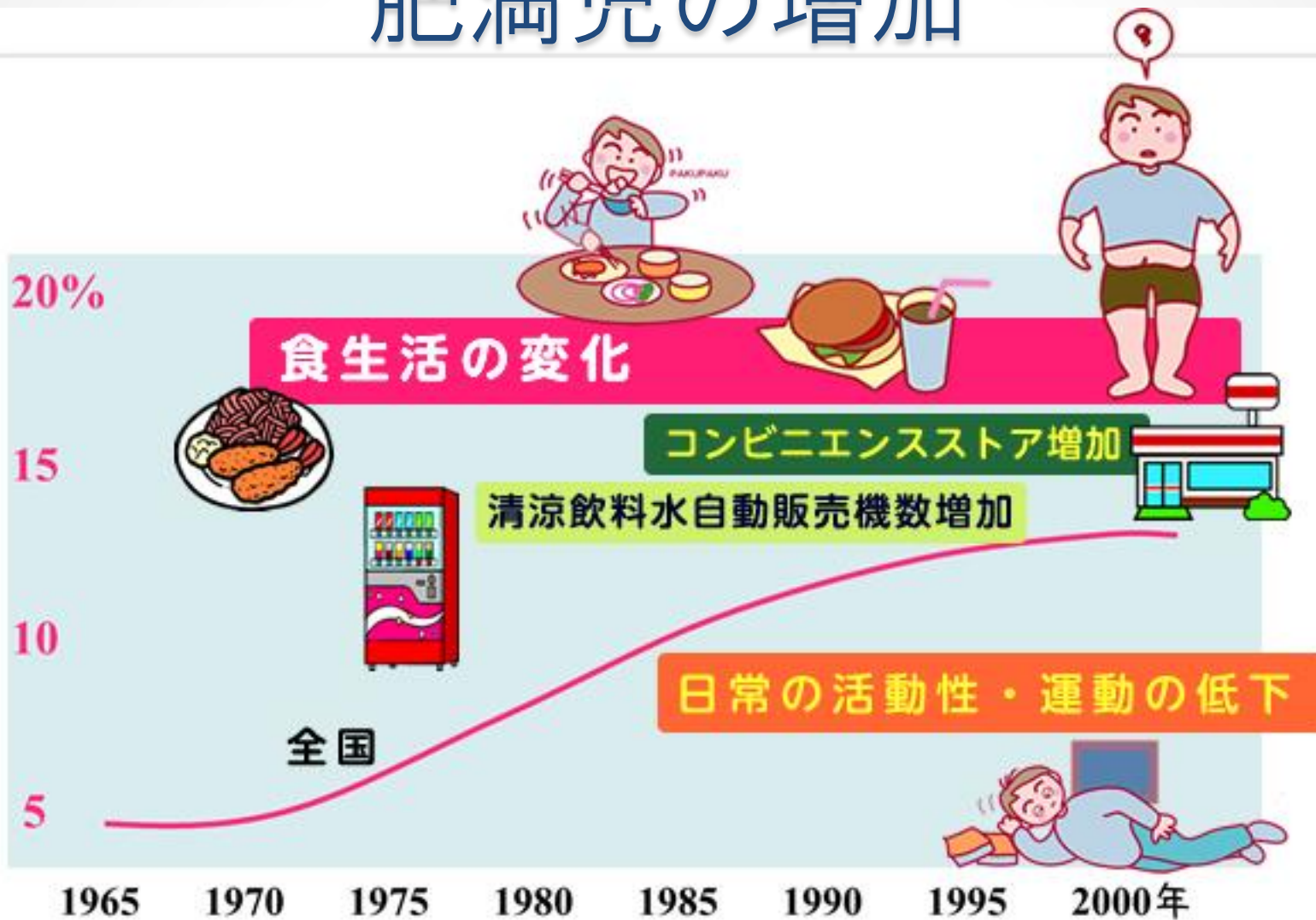
(Scammon, R.E., The Measurement of Man, 1930)

健康面

- 「肥満児の増加」
豊かな食文化と運動不足
- 「骨の異常」
食生活の乱れによるカルシウム不足や日光に当たることで生産されるビタミンDの欠如、猫背



肥満児の増加



出典：日本小児内分泌学会

健康面

- 「肥満児の増加」
豊かな食文化と運動不足
- 「骨の異常」
食生活の乱れによるカルシウム不足や日光に当たることで生産されるビタミンDの欠如、猫背



二極化の背景

3つの間の減少



時間の減少



塾や習い事

高学歴志向

大人以上の過密スケジュール

空間の減少

都市化
のびのび過ごせる場所
子どもだけの空間



仲間の減少

少子化

一人遊びの増加

他学年との交流機会の減少



仲間

3つの間の減少



提言

(中学生を対象に提言)

1 教科外運動の実施

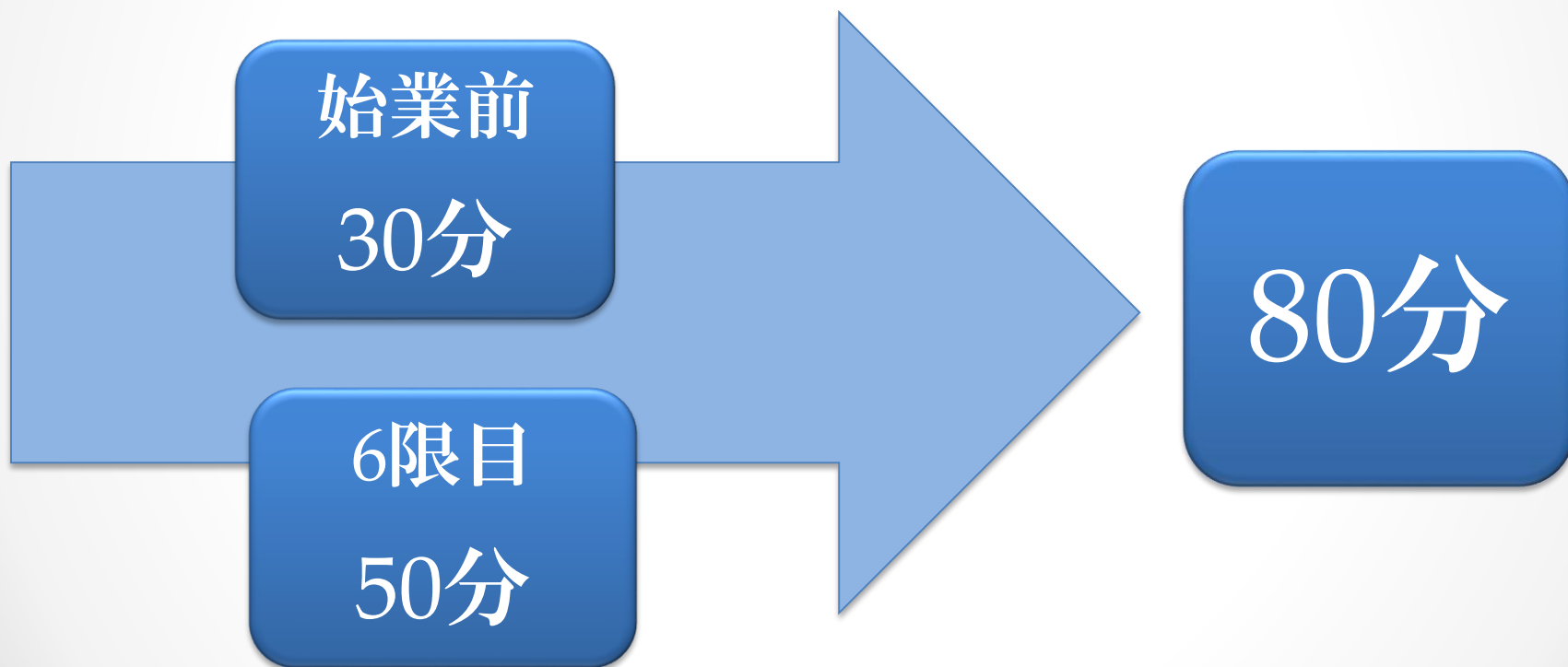
2 部活動の体制変更

3 体育授業の改革

提言 1

教科外運動の実施

教科外運動の実施



授業時数 (中学生)

区	分	第1学年	第2学年	第3学年
各教科の 授業時数	国語	140	140	105
	社会	105	105	140
	数学	140	105	140
	理科	105	140	140
	音楽	45	35	35
	美術	45	35	35
	保健体育	105	105	105
	技術・家庭	70	70	35
	外国語	140	140	140
道徳の授業時数		35	35	35
総合的な学習の時間の授業時数		50	70	70
特別活動の授業時数		35	35	35
総授業時数		1015	1015	1015

1日の授業時数

総授業数：1015時間

授業週数：35週

週授業数：29時間

(1015時間 ÷ 35週)

一日授業数：5～6時間/日

(29時間 ÷ 5日)

→ 1～5限：1日、1～6限：4日間



活動日

時間割の例（1年生）

	月	火	水	木	金
1限目					
2限目					
3限目					
4限目					
昼休み					
5限目					
6限目					

教科外運動

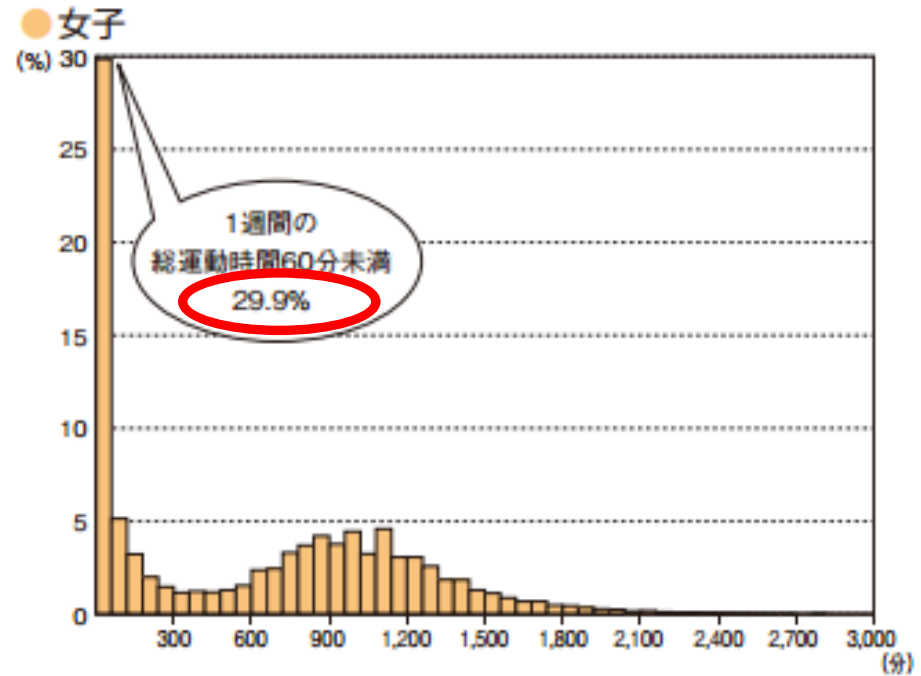
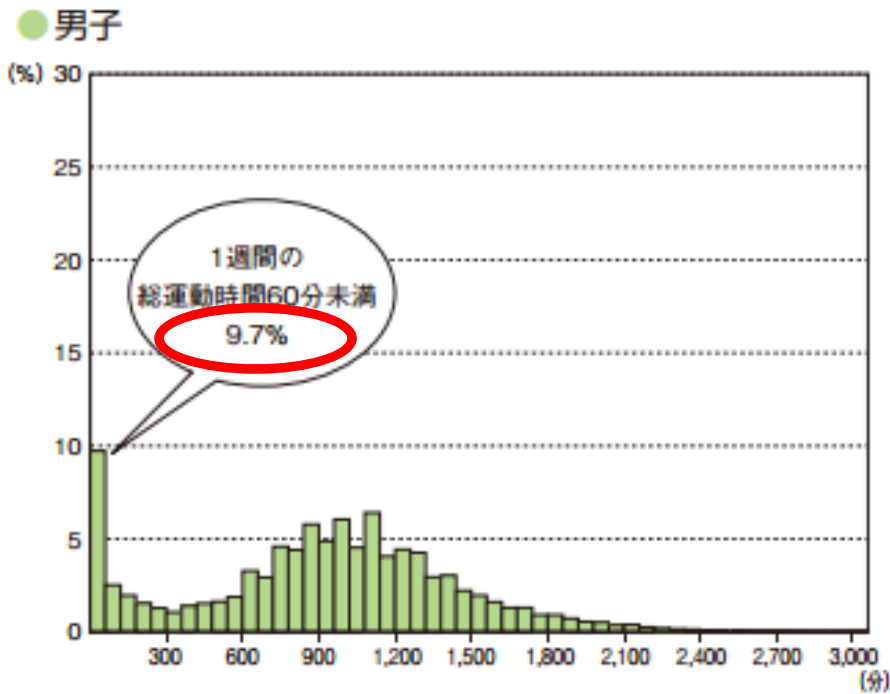
期待できる効果

- ①週に80分の運動時間を確保
→ 1週間の総運動時間が60未満の生徒と
平日の平均運動時間が0分の生徒が0%

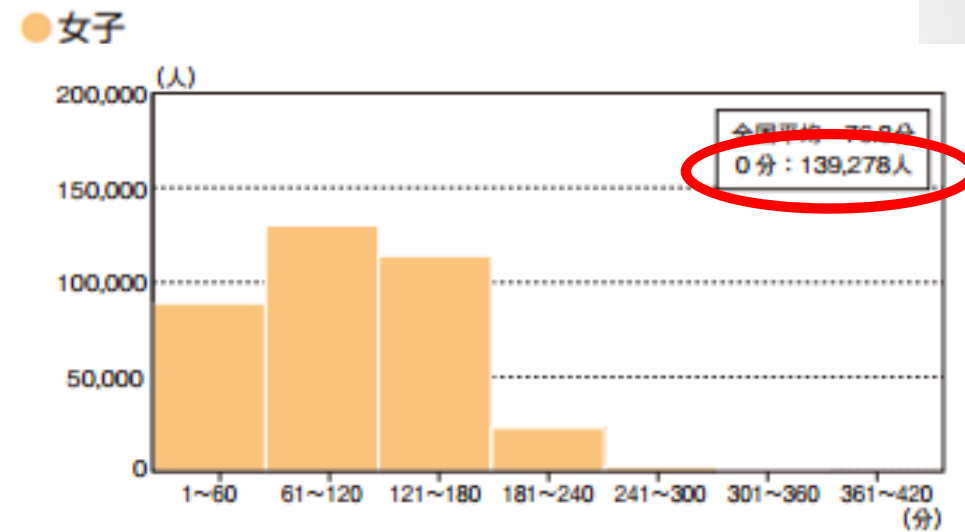
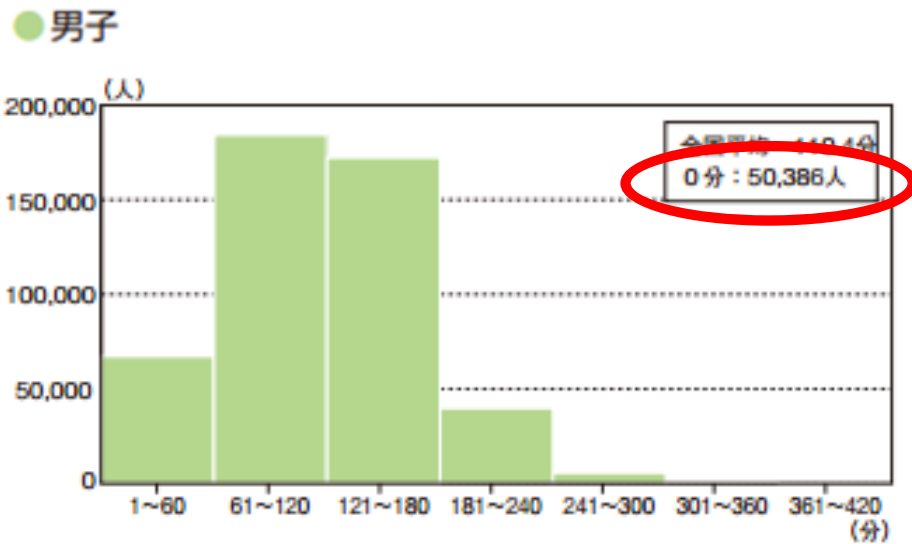
- ②学年内の交流で“友達”ができる
→ 運動機会の増加

- ③多くの種目を体験する
→ 好きな種目が見つけれられる

1週間の総運動時間



平日の平均運動時間

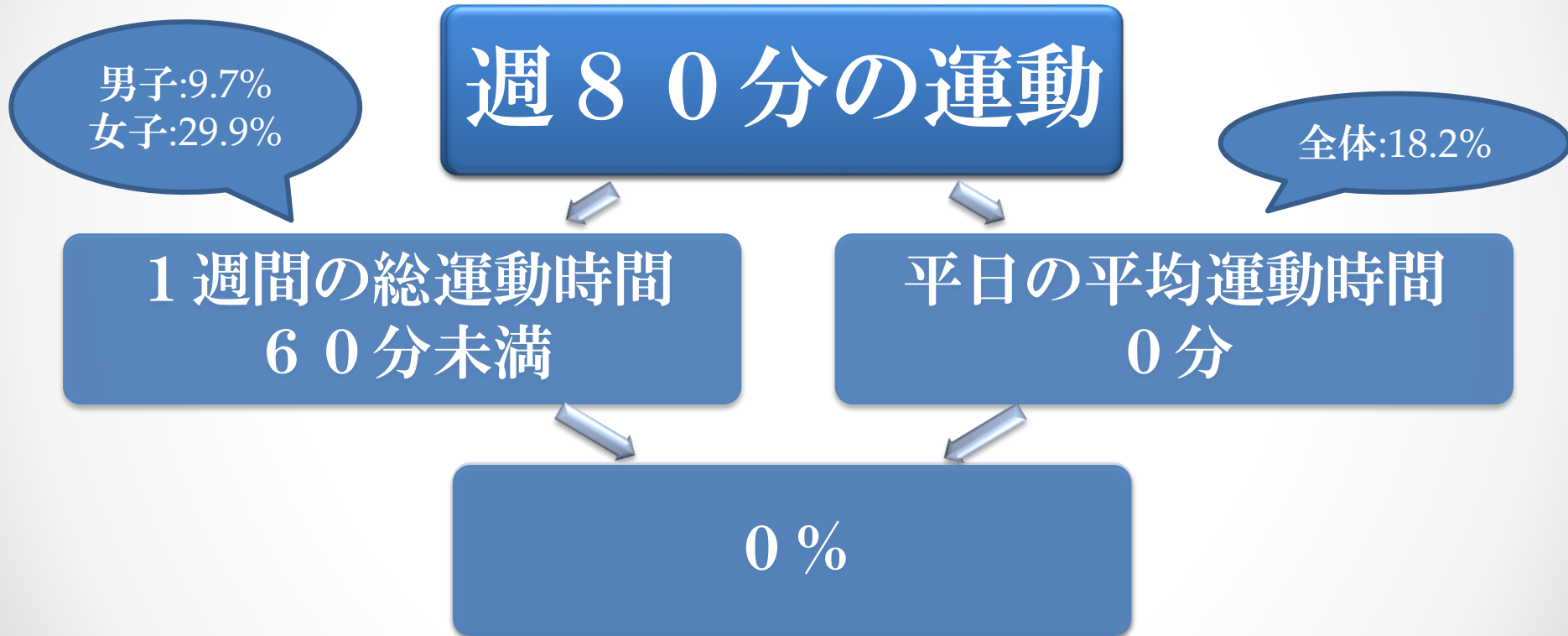


0分の生徒(男子:50,386人+女子:139,278人)=189,664人
全生徒=1,039,921人

0分の生徒が全生徒に占める割合=18.2%

- 出典：文部科学省 平成25年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査

期待できる効果①



- 1週間の総運動時間が60分未満の生徒と
平日の平均運動時間が0分の生徒が0%になる

運動が苦手・嫌いな子が スポーツや運動を行う条件

好きな種目
できる種目

友達

自分のペース

場所

期待できる効果②

学年内の交流



親しくなる



活動外でも運動



運動機会の増加

- 学年内の交流で親しくなった人たちが
- 活動外で運動を行うことで運動機会が増える

体育授業が楽しくない理由

できないことが
できるようにならない

好きな種目を
見つけられない

保健体育が
自分にとって
大切と感じられない

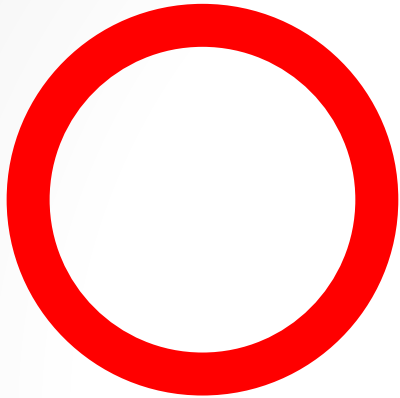
期待できる効果③

多くの種目を
体験する

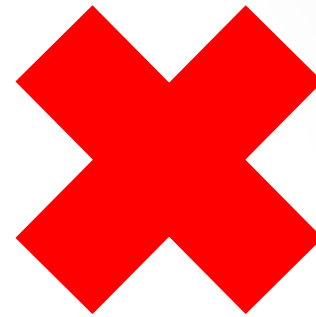


好きな種目を
見つけられる

教員の役割

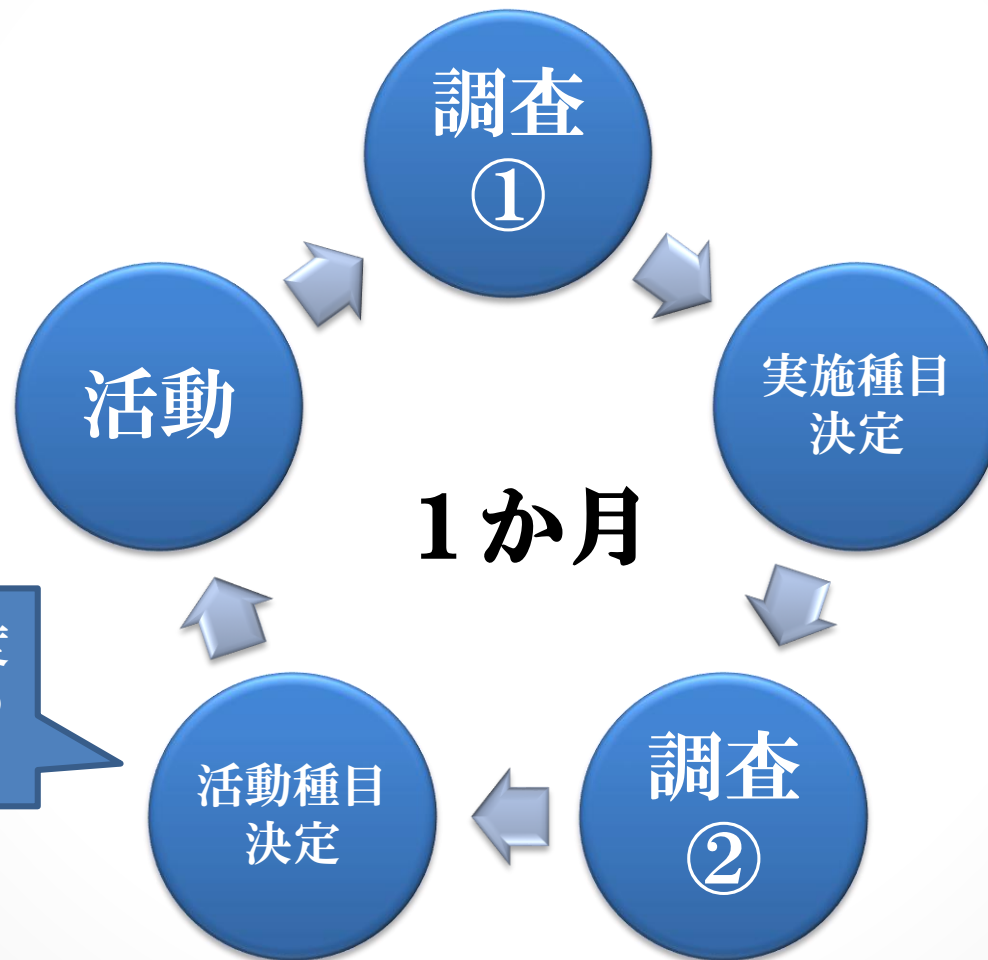


安全確保



積極的な
指導

活動の流れ



円滑に行える程度
の人数になるよう
に制限する

活動日の例

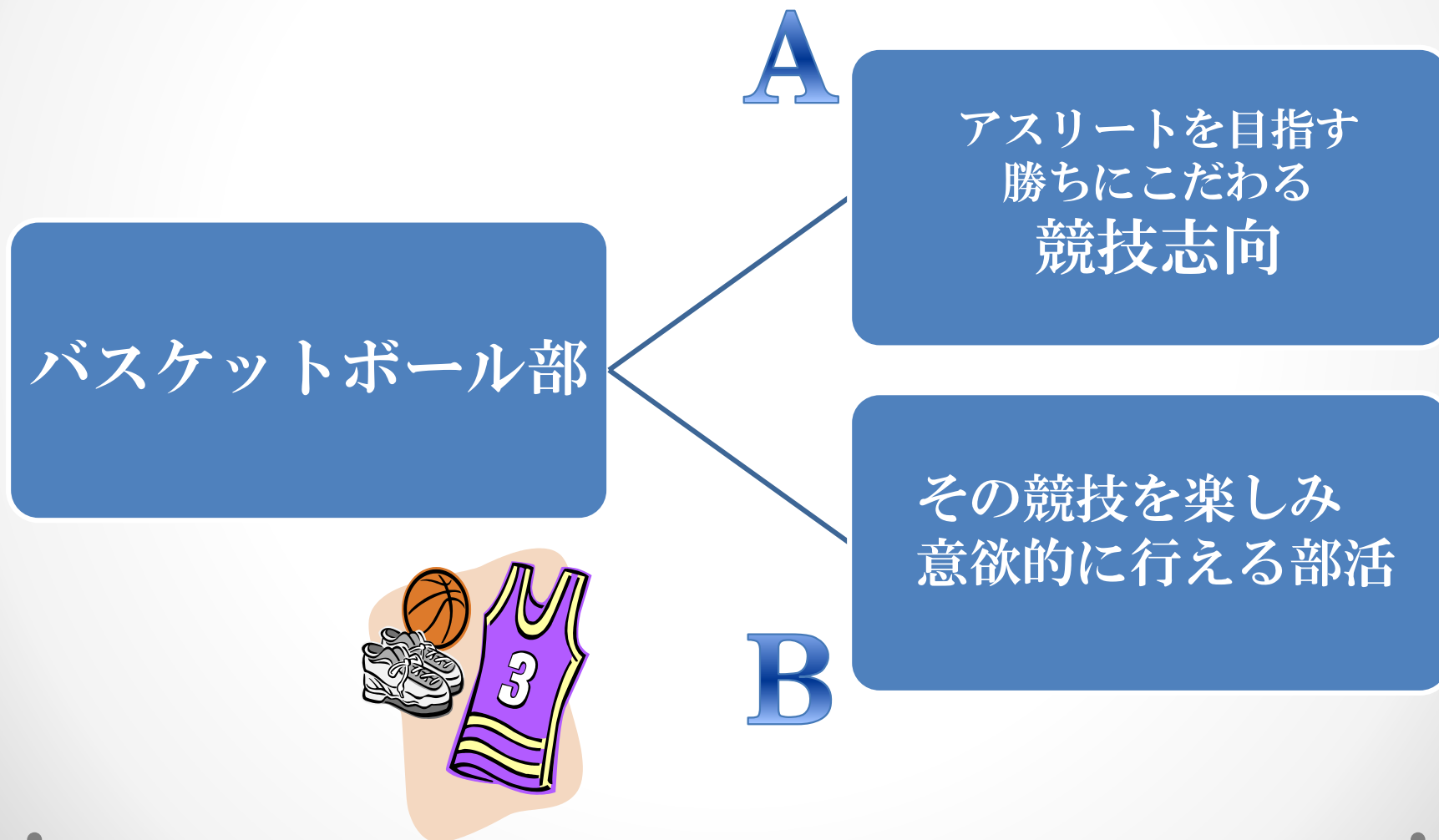
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
<u>始業前</u>	1学年		2学年	3学年	
1限目					
2限目					
3限					
4限目					
昼休み					
5限目					
<u>6限目</u>		3学年	1学年		2学年

提言 2

部活動の体制変更



部活動の体制変更



バスケットボール部 A

勝ちにこだわる競技志向
勝利、技術向上を目標



同じ目標を持つ者同士
真剣に取り組める

バスケットボール部 B



競技を楽しむ目的
苦手意識を取り除く



運動が苦手でも
部活をする機会が与えられ
スポーツ機会が0の生徒の解消

期待できる効果

向上心が高まり
技術向上



楽しむことで
苦手意識を取り
除く

運動機会が0の
生徒を解消

提言 3

体育授業改革

進級

小学生→→中学生

○小学生の不安要素

- ・ 教員との人間関係
- ・ 課外活動の先輩、後輩

1)小中学校の交流合同体育授業

小学生：中学校に対する不安感を軽減させ、進学への期待感を高める
中学校生活での「モデル」に出会う機会をつくる。

中学生：先輩としての自覚を持ち、よりよい行動をする力、自分の責任や役割を果たす力、自分の気持ちを伝える力、仲間の気持ちを聞いて共感的に理解する力。

教職員：小中学校間の違いを認めたらうえで互いに学び合う。

合同体育授業を行った 小学生の声



- ・楽しかった。今度は他のスポーツがしたい。
- ・中学校入学への不安がなくなった。
- ・運動会で中学生がとても優しく、カッコ良かった。
- ・合同体育で友達が多くできた。これからもこういう活動をしてほしい。
- ・普段は会えない、他の小学生との交流ができてよかった。
- ・わかりやすく楽しい授業ばかりだった。
- 他の授業を受けたい、部活見学もしたい。

得られた結果

ほぼ全ての市町村で成果が認められている

- 中学生の不登校出現率の減少
- 全国学力・学習状況調査の平均正答率の上昇
- 児童・生徒の規範意識の向上
- 自尊感情の高まり
- 教職員の児童生徒理解や指導方法改善意欲の高まり

小中の交流

●授業や運動会で小中が交流

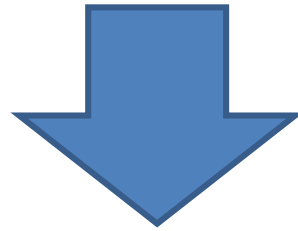


合同体育授業

●中学校職員の専門性を生かした体育授業



2) 授業内容の選択性



やる気アップ！積極的に参加？！

運動が苦手・嫌いな子が スポーツや運動を行う条件

好きな種目
できる種目

友達

自分のペース

場所

運動が苦手・嫌いな子が スポーツや運動を行う条件

好きな種目
できる種目

友達

自分のペース

場所

運動が苦手・嫌いな子が スポーツや運動を行う条件

好きな種目
できる種目

友達

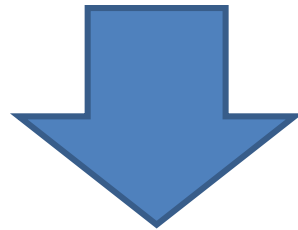
自分のペース

場所

2) 授業内容の選択性

好き・得意・できそう

友達と一緒に



やる気アップ！積極的に参加

楽しく



自発的に！

3) 複数教員配置

従来

一クラス ⇒ 一人の教員

理想！！

一クラス ⇒ 複数教員

【1クラス：一人の場合...】

生徒一人ひとりへ
目が行き届かない



指導が疎かに
安全への配慮×

【1 クラス：複数教員の場合...】

情報を共有、分担が可能
ニーズに応えた授業を展開



性格やレベルに合わせた指導
生徒への目配り◎

4) ICT授業の活用 (ビデオ、インターネット)

- **動きをイメージして興味を促すことができる**
- **思考や理解を深めるといった効果が上げられる**
- **その種目をより身近に感じられ、興味深く捉えることができる**
- **健康の維持増進の重要性を学術的に理解できる**
- **身体運動の効果を体感することにより、心身ともに**
- **充実したライフスタイルを送ることができる**

ICTを使用した授業 (バスケットボール)

- ・映像で重要なところを説明する。



- ・実際に撮影する。

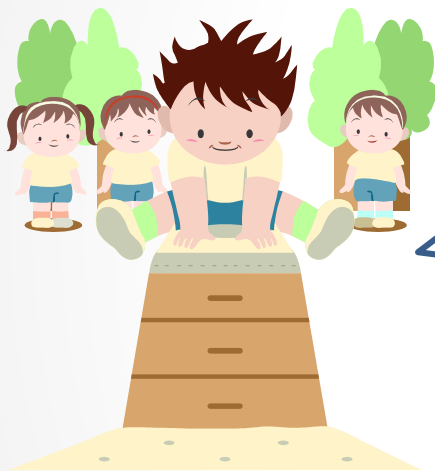


- ・動きを確認



フューチャースクールで最先端のICT教育を実践した ... -
マイナビニュース

ICTを使った授業の感想



・自分の演技が見ることができて、とてもいいと思いました。お手本も大きな画面で、比べられて、とてもよかったと思います。

・スマートボード(電子情報ボード)は書き込んだりできて、先生の説明も分かりやすかったです。「DRAGRI」でお手本が動くので、好きなところで止められて、注意する点がよくわかりました。

・今まで分かっていなかった自分のできていないところが確認できてよかったし、お手本もあったので、いい練習になったと思います。

ICTを利用した指導の 効果の調査

関心・意欲・態度
↑ ↑

98%が向上を認
めた。

知識・理解, 思考・
判断, 表現・技能・
処理 ↑ ↑

集中して取り組める
楽しく学習できている

評価
UP ↑ ↑

ICTの使用には.....

場面・タイミング・工夫が大切!

終わりに

参考文献

- ・大阪市教育局、**「OSAKA人権教育ABC Part5ー『子どもの学び・育ちをつなぐ人権教育の展開』調査・研究（平成23・24年度）」**、2章 小学校と中学校の連携

<http://www.osaka-c.ed.jp/jinken/jken_abc5/004_2syoubu.pdf>

- ・公益財団法人日本レクリエーション協会、**子どもの体力向上**

<<http://www.recreation.or.jp/kodomo/intro/cause.html>>

- ・文部科学省、**教育の情報化に関する手引 第3章 教科指導におけるICT活用**

<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/13/1259416_8.pdf>

- ・文部科学省、**平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果**

<http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kodomo/zencyo/1342657.htm>

- ・日本小児内分泌学会

<<http://jspe.umin.jp/public/himan.html>>